

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：32661

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K15750

研究課題名(和文)医学教育における共感度向上に関する研究

研究課題名(英文)Study on improvement of empathetic communication skill in medical education

研究代表者

中村 祐三(Nakamura, Yuzo)

東邦大学・医学部・助教

研究者番号：20725957

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は医学生の共感的なコミュニケーション能力の現状を把握し、コミュニケーション能力向上に影響を与える因子を検討することであった。結論として現在の医学教育の臨床実習でも共感的なコミュニケーション能力を有意に向上させるが、大勢の患者との短時間の医療面接よりも一人の患者との合計時間が長い医療面接の方がより共感的なコミュニケーション能力が向上することが明らかとなった。最後につつや不安があると共感的なコミュニケーション能力が向上しにくい傾向も明らかとなった。共感的なコミュニケーション能力を向上させるためには、適切な数の患者との医療面接や学生自身の精神的健康も考慮する必要がある。最終的な論文は投稿中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、良き臨床医育成には多くの患者と接した経験よりも一人一人の患者と接し、それをしっかりと理解するといった、ある程度の時間的余裕を持った臨床実習が必要であることが明らかとなった。これをシステムティックにすることで、効率よく、良き臨床医育成には欠かせない、共感的なコミュニケーション能力向上を行うことができるのではないかと考えている。良き臨床医を多く輩出できることで、患者への対応能力が向上し、診察の質が向上することで、ひいては医療費削減に貢献できるようになるのではないかと考えている。

研究成果の概要(英文)：We examined to understand the current state of empathetic communication skill of medical students and the factors that improved of empathetic communication skill. We understood that clinical practice of current medical education significantly improves empathetic communication skill. In addition, a long time medical interview with one patient improved more empathetic than an over medical interview with many patients. Finally, medical students with depression and anxiety have difficulty improving their empathetic communication skills than others. We understood that medical interviews with an appropriate number of patients and considering the mental health of medical students improved empathetic communication skill. I have posted the final result papers.

研究分野：医学教育

キーワード：医学生 共感 臨床実習 精神的健康

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在の日本の医療費は現在 40 兆円まで拡大しているが、大半が慢性疾患である。慢性疾患の多くは器質的因子だけでなく、心理的因子からのアプローチ、つまり精神的側面からのアプローチを行うことも重要であり、これを行うか否かによって、症状が変化すると考えられる。そのため患者を身体的側面からも精神的側面からもしっかりと診察をする、いわば「患者から信頼される臨床医」を育成することが重要であり、そのためには医師の共感的なコミュニケーションスキル向上が必須となる。

しかし昔から医師のコミュニケーション能力の低さは指摘されてきているものの、この共感能力の育成は検討されてこなかった。医師の共感的なコミュニケーションスキルの重要性が訴えられるようになったのは最近 2,30 年であり、不明な点も多い。

2. 研究の目的

本研究は医学部の臨床実習教育を通じて、情動・共感能力を客観的指標で評価を行い、医学生の共感能力の現状の測定、実習での関わり方や実習内容によりどのように共感能力が変化するかを調査することを目的とした。本研究は前向きな観察研究であり、これを明らかにすることで、共感的なコミュニケーション能力に影響を与える因子と向上させる方略の手がかりになると考えられた。

3. 研究の方法

2017 年 10 月から 2019 年 1 月までに東邦大学医療センター大森病院で 1 週間の臨床実習を行った東邦大学医学部 5 年生 141 名(男子学生 90 名, 女子学生 51 名)を対象とした観察研究であった。学生に以下二つの質問紙を配布し、それを評価項目とした。また学生の実習内容や性別、医療面接を行った患者数により、共感的なコミュニケーション能力がどのように変化し、影響を与えるのか検討した。

Jefferson Scale of Physician Empathy Student version (JSE score 日本語版; JSE-S); 医療者の共感度を測定する質問紙で様々な言語に翻訳され、使用されている。JSE-S を実習開始前と実習終了後の 2 回記入してもらい、JSE-S の合計点と実習前後の変化量を分析に利用した。

GHQ-30; GHQ (The General Health Questionnaire) 一般精神健康質問紙であり、本研究では職場の健康管理などで主に用いられる 30 項目からなる質問紙を使用した。

4. 研究成果

(共感的コミュニケーション能力の現状)

学生が任意に提出した質問紙で有効回答数は 89.4%であった。内容に関わらず、従来からの臨床実習でも有意に共感的なコミュニケーション能力が向上した($t(125)=-4.6, p<0.0001$ 図 1)。また先行研究で指摘されている、女子学生の方が実習前の時点での共感的なコミュニケーション能力が高いという結果については有意差を認めなかった($t(124)=-1.1, n.s.$)。しかし男子学生は実習の内容に関わらず、実習を行うことだけで共感的なコミュニケーション能力が有意に向上するのに対し、女子学生は入院症例を選択した学生のみ、有意な向上を認めた。

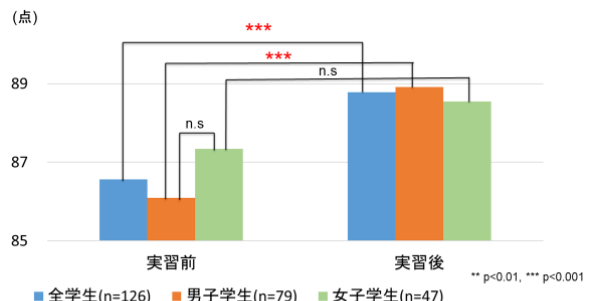


図1 実習前後の共感的コミュニケーション能力の変化

(精神的健康度と共感的コミュニケーション能力の関係について)

学生の精神的健康度については他の研究と比較し、本研究の被験者は同程度の精神状態であった。しかし GHQ-30 の下位項目である「E 不安と気分変調」「F 希死念慮うつ傾向」が陽性であった学生 (40 名) とそうでなかった学生では共感的コミュニケーション能力が向上しにくい傾向を認めた($t(124)=-1.8, p<0.10$)。

(医療面接を行った患者数について)

最後に医療面接を行った患者数と JSE score の変化量を示す (Fig1)。JSE score が最も向上するのは 3 名の患者との医療面接を行った場合であった ($F(4,121)=3.3, p<0.01$ 図 2)。

(考察)

本研究で明らかとなったのは現在の医学教育の臨床実習でも共感的コミュニケーション能力を有意に向上させるが、より共感的なコミュニケーション能力が向上するのは入院症例を選択した場合と 5 日間の実習で 3 名の患者の医療面接を行った場合であった。その理由としては外来患者への医療面接よりも入院患者の医療面接の方が一人の患者に対する面接合計時間が長く

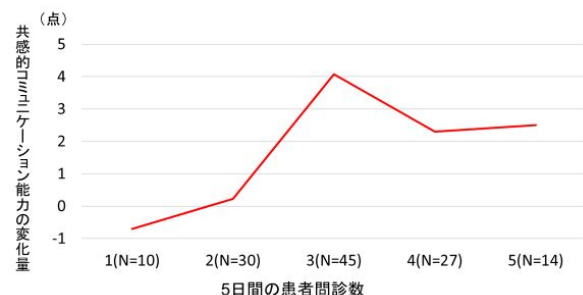


図2 5日間の医療面接人数と共感度変化量

なること、1日10分程度の面接を行った後に、一度家に帰って翌日に何を患者と話をするのか、整理をつける時間があることで、より共感的コミュニケーション能力を向上させやすい面接を行うことが出来るためではないかと推測された。また患者の人数については、実習日数に対して、あまりに多すぎる患者との医療面接は学生にとって「消化不良」となることが今回の調査研究で統計的な分析結果で明らかとなった。

最後に今回の調査ではうつや不安がある学生では共感的コミュニケーション能力が向上しにくい傾向が示唆された。これは他の研究でも既に指摘されており、臨床実習を有意義なものにするためには、このような学生を早い段階で見つけ出し、学生への対応を行うことが必要である。また学生の性格傾向が間接的に精神的健康度に影響を与え、共感的なコミュニケーション能力に影響を与えていた可能性も否定出来ないため、今後は学生の性格傾向と精神的健康度を合わせて調査していく予定である。

上記考察まで、2019年医学教育学会、日本心療内科学会で発表を行い、論文については現在投稿中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中村祐三 端詰勝敬	4. 巻 7
2. 論文標題 臨床に繋げる共感 医学教育の中の共感	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心身医学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村祐三	4. 巻 春季増刊
2. 論文標題 すぐにわかる！使える！緩和ケア実践力UPのポイント61 D 精神神経症状への対応 つらさ.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 YORi-SOUがんナーシング	6. 最初と最後の頁 246-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村祐三 端詰勝敬	4. 巻 132(6)
2. 論文標題 栄養指導に活かす行動医学の視点-患者のこころとからだを支えるために】(Part 4)栄養指導に活かすためのQ&A 患者がマスコミで知ったり知人に勧められたりした健康情報・製品を次々試しているようですが、管理栄養士の説明する情報にはあまり耳を傾けてくれませんか(Q&A/特集).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床栄養	6. 最初と最後の頁 877-880
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuzo Nakamura Takeaki Takeuchi Kazuaki Hashimoto Masahiro Hashizume	4. 巻 11(16)
2. 論文標題 Clinical features of outpatients with somatization symptoms treated at a Japanese psychosomatic medicine clinic.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BioPsychoSocial Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13030-017-0104-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中村祐三, 小山明子, 柗末聖, 竹内武昭, 端詰勝敬
2. 発表標題 学生の共感性向上に影響を与える要因についての観察研究
3. 学会等名 第23回日本心療内科学会総会・学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村祐三, 都田淳, 竹内武昭, 端詰勝敬
2. 発表標題 心身医学はなぜ必要なのでしょうか? Why is psychosomatic medicine necessary?
3. 学会等名 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Y Nakamura. A Koyama. N Doi. T Takeuchi. M Hashizume
2. 発表標題 Study on the secular change of the physician empathy in our education clinical training
3. 学会等名 The 18th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村祐三 小山明子 竹内武昭 端詰勝敬
2. 発表標題 臨床実習における女子学生の共感性を検討した研究
3. 学会等名 第46回日本女性心身医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村祐三 橋本和明 竹内武昭 端詰勝敬
2. 発表標題 臨床実習における共感度を検討した研究
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村祐三 柊末聖 上野孝之 橋本和明 小山明子 嶋美香 都田淳 竹内武昭 端詰勝敬
2. 発表標題 医学生の精神的健康度と自尊感情の実習への影響について
3. 学会等名 第2回 日本心身医学関連学会合同集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村祐三
2. 発表標題 医学教育と心身医学
3. 学会等名 第2回 日本心身医学関連学会合同集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村祐三
2. 発表標題 臨床に繋げる共感 質問紙から見てきた医学教育の中の共感
3. 学会等名 第2回 日本心身医学関連学会合同集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村祐三 都田淳 竹内武昭 端詰勝敬
2. 発表標題 共感的なコミュニケーション能力向上に繋がる要因とは？
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村祐三 小山明子 中村陽一 端詰勝敬
2. 発表標題 実習前の医学生の精神的健康度と共感的コミュニケーション能力について
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考